

## 東京都立葛飾盲学校における学校コンサルテーションの取り組み

土谷良巳  
(上越教育大学)

菅井裕行  
(国立特殊教育総合研究所)

### 1. はじめに

都立葛飾盲学校における学校コンサルテーションは、平成14年4月に対象となる一人の盲難聴児が同校へ入学したことにより開始された。対象児は生後1歳から国立特殊教育総合研究所の教育相談(担当者土谷・菅井)に在所しており、その間対象児が1歳から3歳までは所属した保育所への数回の訪問を実施し、3歳から就学までは在籍した別の保育園へ月1回のコンサルテーションを実施した。対象児が同校へ入学するに当たって、それまでのコンサルテーションの実績をもとに、学校と研究所との連携に関する要望が保護者から出され、同校と研究所との協議によって、平成14年5月からコンサルテーションが実施されることになった。

### 2. コンサルテーションの経過

平成14年度からほぼ月1回のコンサルテーションを実施している。

1) 平成14年5月から現在(平成15年度)までの2年間で20回(予定を含む)程度学校を訪問することでコンサルテーションを実施した。学校訪問においては授業と対象児の行動観察を行い、対象児下校後にコンサルティと協議することを実施してきている。

2) また、平成15年3月(対象児の1学年修了時)には3日間、同年7月(対象児の2学年1学期修了時)には2日間、同年12月(対象児の2学年2学期修了時)には1日、また平成16年3月(対象児の2学年修了時)には2日間かけて、通常の授業外の教育実践を「集中学習」として学校において実施し、対象児の教育課題等について検討した。

3) 平成15年9月(対象児の2学年2学期)には、上越教育大学において宿泊を伴う3日間のワークショップを実施し、担任の教師も参加して、集中した教育実践を行い、対象児についての理解を深めた。

### 3. コンサルテーションの概要

1) 対象児 SN(未熟児による盲難聴):平成14年度・15年度(小学部1、2学年:担任U先生)

1995年8月生まれの男子。双胎の未熟児(在胎26週)であり、872グラムの体重で生まれた。50日間保育器に入り、生後4か月で退院。未熟児であること、視覚と聴覚に障害があることから、種々の医療的なケアを受け、3歳から盲学校での教育相談を2、3か月に一度受けた。退院後は健康上の問題はない。1歳0か月から盲学校入学時まで同胞(女兒)と共に保育園で保育を受けた。

1歳0か月の時に当研究所の教育相談に在所。2歳0か月に再度来所し、それ以後継続的な来所となった。2歳6か月までは2か月に1度、その後4歳11か月まで月に1度の来所、以降2か月に1度の来所となっている。3歳8か月からは1、2か月に1回程度保育園への訪問をした。

未熟児網膜症を発症し、全盲である(光覚はあると思われる)。手探りで、または台車を前にして押しながら移動する。

中程度の難聴(70~95dB)であるが、早期からの補聴器の装用により、50デシベル程度の聴力レベルにあり、聴覚活用は良好である。1歳の頃から、両親や保母の歌う歌に聞き入る様子が見られ、次々と歌のリズムやメロディーを口にするようになった。ロザさんでいる歌が何であるかは、その歌を知っていれば、初めて聞くものにもしばしば了解できる。聞いたことばはすぐ繰り返そうとするが、聞き取りにくい。また最近では母親を呼ぶ声や「ボール」、「トッテ」等の玩具を求める声、日常の生活で繰り返される「ゴチソウサマ」、「オシマイ」、「ハイ」、「ハジメマース」、「オワリマス」等が、身近なものにはよく聞きとれるようになってきている。

麻痺はなく、身体の動き自体に不自由さは感じられないが、食事、排せつ、衣服の着脱等の身辺処理に介助が必要であり、同年齢の子どもと比べれば一つ一つの動作に時間がかかる。食事には淡泊で、手づかみか食物の盛られたスプーンを口元まで運んで食べ、コップを使う。い

わゆる時間排せつである。

遊びは、例えば電気式のヒーターが発する音や振動を受け、探り、確かめ、スイッチやダイヤルを操作して変化をつけ、味わうことをモチーフにして展開させる活動や、音楽や物語に聴き入るといった聴覚的な活動と、滑り台や肋木をつかう身体運動的な活動、またリトミックのような身体運動や身体を揺すられたり押しつけ合ったりする遊びなどを好むようである。

2) SNを対象児としたコンサルテーション活動は、すでに述べたように、学校と研究所との連携に関しての保護者からの要請に基づいて、同校と研究所との協議によって、平成14年5月から開始された。同時に国立特殊教育総合研究所重複障害教育研究部第一研究室の一般研究としても取り組まれた。

コンサルテーション活動は、月に一回程度 SNの学級を訪問し、その日の時程にそって授業を見学し、対象児の行動を観察しつつビデオ映像に記録し、対象児の下校後に担任を中心にその日の様子をもとにした話し合いをもつというものであった。話し合いではその日の授業全体を振り返ったが、とくに SN との個別的な係わり合いの場となる自立活動の授業に関しては、教材・教具や指導のプロセスの詳細な検討を行った。

またすでに述べたように、学期毎の終了時には、学校において担任とともに数日間の集中学習を実施した。そこでは自立活動の授業で取り組まれてきた課題を取り上げ、それまでの取り組みの見直しを行い、それをもとに次の展開に向けて修正をはかり、またあらたな課題を探ることにも取り組んだ。

#### 4. まとめ

都立葛飾盲学校において対象児 SN の担任をコンサルティとしたコンサルテーションの取り組みに関して、その特徴を浮き彫りにすることで、まとめとする。

1) 繰り返し述べたことではあるが、このコンサルテーションは保護者からの要請に基づいて、同校と研究所との協議によって開始されたものである。

保護者がそのような要請をした背景には、対象となった盲難聴の子ども SN が、生後一年目から国立特殊教育総合研究所の教育相談に訪れ、コンサルタンต์となったわれわれが、その教育

相談の担当者であり、研究所に来所しての相談活動に加えて、盲学校入学前から保育所へのコンサルテーション活動を実施してきており、その有効性を保護者が深く認めていたことがある。

また、このコンサルテーション活動は、同時に国立特殊教育総合研究所重複障害教育研究部第一研究室の一般研究としても取り組まれ、学校は研究協力機関であり、また担任は同じく研究協力者となった。コンサルティは、毎年度開催される研究協議会に参加することで、他の盲学校で盲ろう二重障害児の教育を担当している教員と交流し、経験や情報の交換がなされることにもなった。この機会がささやかではあるが、コンサルティの研修の場となったと捉えている。

同様のことは、われわれが開催している「集い」に関するもいえる。これは研究所での教育相談を中心に、直接担当している、SNを含む視覚聴覚二重障害の子どもと家族を対象に、年に一度開催しているもので、集いにおいては、子どもとその家族に加えて、学校の担任など関係者も参加し、様々な出会いと情報交換の場となっている。SNの場合も担任はSNの学級の他の教員と共にこの集いに参加してきている。このような機会が保護者との相互の理解を深めるとともに、この子どもたちとその教育を理解する研修の場ともなっている。

2) このコンサルテーション活動は、対象児 SN の担任とわれわれとの間でのみ実施されてきており、研究所の研究協議会を本校を会場に一回実施した以外は、他の教員を含み込んだ特別なプログラムを実施したり、同校の研修活動へ直接関与することはなかった。いわば「閉じた関係」で展開されてきたコンサルテーション活動といえる。

だがコンサルティとなった SN の担任とわれわれとの取り組みは、朝の会、帰りの会や教科の授業や給食の時間を通じて、周囲の教員が直接間接に目にするところであった。そして SN が第2学年を修了するこの時期になって、小学部の他の教員から、担当している盲重複障害の子どもを巡って、相談にのってほしい旨の依頼を受けることになった。このことは、われわれのコンサルテーション活動が、同校の教員から間接的にはあるが肯定的に評価されたことの一端と受け止めている。

3) このコンサルテーション活動を通して、コン

サルタント（われわれ）とコンサルティ（担任）とは互いの立場が入れ替わるような体験をもつ機会に恵まれた。

われわれは SN の教育相談担当者として、今年度 9 月（SN の 2 学年 2 学期開始時）に、SN とその家族を上越教育大学へ招き、2 泊 3 日の合宿を実施し、SN の担任も参加した。合宿ではわれわれが SN の担当者として直接の係わり合いを持ち、担任は見学者の立場となった。保護者と SN を軸にして、担任とわれわれとが立場を入れ替えた事態でもあった。

担任は観察者の立場からわれわれの取り組みを観察し、夜のカンファレンスに参加し意見を述べた。またわれわれと共に保護者との話し合いをもった。この合宿へ観察者として参加することによって、担当者としての学校での係わり合いでは得られない、新たな子どもとの出会いを経験できたとしている。

われわれにとっては、研究所での教育相談とは異なる場で、担任と場を共有しつつ SN と直接係わり合う機会を持つことで、コンサルティである担任とより深く理解し合えたと感じている。

このようなコンサルテーション活動における主客二役性について、コンサルテーション論の枠組みのなかでどのように位置づけるか、今後の検討課題となるのではないだろうか。